

Sequence, Pattern and Phrase

Lesson by Naoya Ikebe

Sequence や Phrase などという言葉は巷ではよく耳にします。

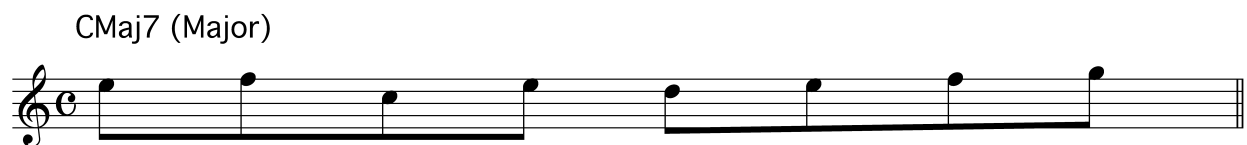
ですが、それらを実際に自分で分かり使用する、もしくはそれをもとに勉強する人は非常に少ないように思います。音楽理論(楽典)には確かに“これが全世界で使われる理論だ！”というものはありません。一流ミュージシャンでも時には間違った、または独特な表記法をする人がいます。一番分かりやすい例はコード表記だと思います。

実際に演奏をすることが目的にミュージシャンには“その音がどのように呼ばれている”かは確かに重要ではないかもしれませんが。(共演者に間違った伝わり方をしない限りの話ですが。。。) ですが、自分の中で様々な事柄をしっかり把握することは非常に重要です。

一般的には Oxford Dictionary にて音楽用語は定義された意味合いで使われることが一般になっていますが、ここでは僕の中での Sequence, Pattern そして Phrase という用語をクリアにし、どのように使用するかを話したいと思います。

まくまでも、一般的な理論というよりは僕の中での定義ですのであしからず。。。。

まずは以下の譜例を見てください。



僕はこれを見たら基準の音から以下のように構成されているなど考えます。

2度上がって4度下がって3度上がって2度下がって2度上がって2度上がって2度上がって

これを見やすく自分なりの表記をすると、

S : 2 ↑ 4 ↓ 3 ↑ 2 ↓ 2 ↑ 2 ↑ 2 ↑ (Sはスタート音を表す)

これが音がどのように動くかを表す Pattern と考えます。

音の配列や関係を表す、ある意味数学的なものです。

中には“2度には長2度と短2度二つあるじゃん！”と思う人がいるかと思いますが、最後まで読めば僕の考えが理解できると思います。では引き続き、

上で Pattern がどういうものか分かったと思いますが、これは CMaj7 というコードの上で E の音（3度の音）から始めました。これを次に4度の音=Fから当てはめると、

CMaj7 (Major)



このようになりました。つまり Pattern という配列に実際に音を当てはめていくことによって発生するものを僕は Sequence と読んでいます。

最初の譜例では短2度から始まりましたが、ここでは長2度から始まっています。

要約になりますが CMaj7 というコードが“どのスケールを使用するかを伝えている= Chord Scale といいます”ので、ここでは C Major スケールを例に)構成音は全て CDEFGAB になるはずですが、間違っても全く同じものを F から弾かないことです。これでは単なる移調になってしまいます。

さて、上では同じコードで違うスケール音から始めましたが今度は違うコード上で弾いてみたいと思います。

Abm7 (Dorian)



ジャズを弾く人なら難しいスケールを使うかもしれません、難しいスケールでの練習も必要になってきます。

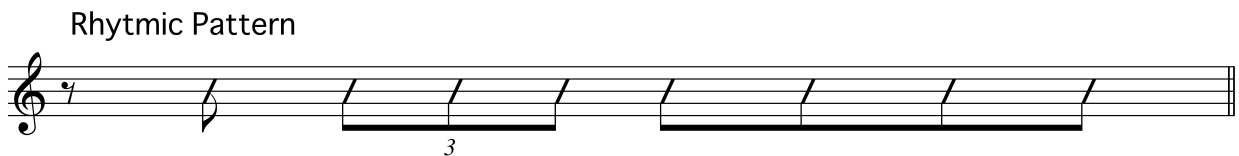
Gb7 (Lydian Dominant)



さて、Pattern の話に戻りますが僕の中で Pattern には 2 つのタイプがあります

- ①Melodic
- ②Rhythmic

次に②にある Rhythmic Pattern を挙げてみます、



そしてここに上で学んだ Melodic Pattern を使い、最初と同じものを弾くと



このようになります。ここで初めて Phrase が出来上がります。要は Phrase というものは Melodic Pattern というものに音は当てはめたことによるできる” Sequence” に Rhythmic Pattern を採用したことによってできるものなのです。

まとめになりますが何を言いたいかというと、様々なアーティストのソロやリックなどを学ぶ時には単にそのフレーズを弾くだけではなく、その中に隠された様々な要素を学ぶことが重量ということです。もちろん、この他にも色々な観点から分析することができます。

(何度の音を使用している、とか様々な Harmonic アプローチなど) このように、分析することで、単にその人の弾いたフレーズそのものだけでなく、そこから応用や自分なりのフレーズ作りに役立つのです。

“なぜそのフレーズが格好良く聴こえるのか？”というのに着目して分析することが重要になります。これは偶然ではなく必然なのです。